

令和
7年度

事業所における自己評価総括表(公表)

COMPASS 発達支援センター守口



○事業所名	COMPASS発達支援センター守口			
○保護者評価実施期間	令和7年9月1日		～	令和7年9月30日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	23名	(回答者数)	18名
○従業者評価実施期間	令和7年9月1日		～	令和7年9月30日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	7名	(回答者数)	7名
○事業者向け自己評価表作成日	令和7年10月1日			

○分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	COMPASSでは全国に事業を展開しており、系列事業所との連携があります。 各担当者が会議や勉強会をおこなっており、事例検討なども含めて多様な視点からの意見を取り入れて、計画書や日々の療育に取り入れております。	各担当毎に事業部内で担当グループが形成されており、担当グループ主体での会議や勉強会が実施されています。 複数の地域に事業所があるので、不明な点などは指定権者に確認をし、法令に沿った事業所運営をおこなっております。	児童が楽しみながら通ってくる事業所、成長を感じられる事業所、安心して通ってもらえる事業所を常に考えながら、決められたルールを遵守して取り組んでまいります。
2	新しい教材・遊具の導入 発達段階に合わせた新しい教材や、感覚統合を促す遊具の充実を図っております。	日常生活スキルの向上 着替え、手洗い、食事などの基本的な生活動作を、楽しく学べるよう支援しております。	家庭との情報共有の強化 連絡帳やデジタルツールを活用し、支援内容や児の成長を保護者様と共有する機会を増やしております。
3	多様な療育プログラムの提供 感覚統合、運動療育、コミュニケーション支援など、多様なアプローチを取り入れております	家族支援の強化 家庭での支援につながるアドバイスをおこない、保護者様向けの勉強会も実施しております。	地域との連携の強化 医療機関や保育園、幼稚園などと連携し、継続的な支援ができる環境を整えております。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	支援スペースの確保が難しい活動の種類が増える中で、十分なスペースが確保できない場合がございます。	施設環境の制約 限られたスペース内で多様な活動を行うことが難しい場面がございます。	スペースの有効活用 設備配置を工夫し、活動ごとに最適な環境を整えるよう努めております。
2	支援プログラムの更新が必要 児童の発達状況に応じ、より効果的なプログラムの見直しが必要となっております。	支援対象の多様化 児童一人ひとりの発達状況や特性が異なり、画一的な支援が難しくなっております。	支援プログラムの定期的な見直し 最新の療育手法を取り入れながら、より効果的な支援に向けて見直しを行っております。
3	送迎の課題 送迎サービスを利用する家庭が多く、ルートや時間の調整が課題となる場合がございます。	保護者の支援ニーズの変化 保護者様のニーズが多様化しており、個別対応がより求められております。	送迎サービスの効率化 ルートの見直しや保護者様との調を行い、スムーズな送迎を目指しております。



公表日：令和8年4月8日